

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 IAU分科会 更新日 2012/9/9
(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際天文学連合
(欧文) The International Astronomical Union
(略称) IAU

日本学術会議加入年(西暦) 1920 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) The Executive Committee

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Norio Kaifu	Silvia Torres-Peimbe	Matthew Colless他5	Thierry Montmerle
(国)	Japan	Mexico	Brazil	France

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

Executive Committee の役員は、President 1名、President-Elect 1名、Vice-President 6名、General Secretary と Assistant General Secretary 各 1名により構成される。これら役員は、Special Nominating Committee (SNC)による推薦者を General Assembly (総会)の場で選出する。

加入国・地域の数 73 ヶ国 個人会員は93の国と地域にまたがる

主要加入国(10ヶ国程度を列挙)

米国、フランス、英国、オランダ、ドイツ、イタリア、ロシア、中国、インド、ブラジル、オーストラリア 等

国際学術団体のホームページURL <http://www.iau.org>

国際学術団体の年間運営経費 CHF1,200,000 (~€ 1,100,000)

日本の分担予定額[事務局で記入] 6,037千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2012年8月20 日-31日	The 28th General Assembly of IAU	Beijing, China	約3000	127	
2012年3月12 日-16日	IAUS 279 Death of Massive Stars: Supernovae and Gamma-Ray Bursts	Nikko, Japan	約200	約50	
2011年7月26 日-29日	APRIM 2011: 11th Asia- Pacific IAU Regional Meeting	Chiang Mai, Thailand	約370	43	
2009年8月3日 -13日	The 27th General Assembly of IAU	Rio de Janeiro, Brazil	約2,300	64	
2009年1月19 日-1月23日	IAUS 260 The Role of Astronomy in Society and Culture	UNESCO, Paris	約400	14	

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2012年8月20 日-8月31日	The 28th General Assembly of IAU	Beijing, China	73	岡村定矩	4
2011年5月24 日-5月26日	IAU 89th Executive Committee Meeting	Prague, Czeck			
2009年8月3 日-8月13日	The 27th General Assembly of IAU	Rio de Janeiro, Brazil	73	海部宣男	3
2008年5月28 日-5月30日	IAU 84th Executive Committee Meeting	Oslo, Norway			
2006年8月14 日-8月25日	The 26th General Assembly of IAU	Prague, Czech Republic	73	海部宣男	

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

IAU Information Bulletin: 会員向け機関誌, 年2回発行(最新号No. 110)
 IAU Transactions A, B, Highlights of Astronomy: 3年ごとに開かれる総会のまとめ。
 IAU Symposia Proceedings: IAUが主催するシンポジウムの集録。1953年以来286巻を刊行。
 IAU Colloquium Proceedings: IAUコロキウムの集録。1959年以来200巻を刊行。

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p style="text-align: center;">国際機関等の提唱で行った活動</p> <p>ガリレオが初めて望遠鏡を夜空に向け宇宙への扉を開いてから400年の節目となることを記念して、国際連合は2009年を“International Year of Astronomy”「世界天文年」とすることを2007年12月の総会で決議した。IAUはこれをうけ、世界148の国と地域でさまざまな形の天文学・宇宙科学に関する普及・啓発事業を展開した。</p>
<p style="text-align: center;">国際機関等への提言等</p> <p>Barycentric Dynamical Time等の、時間や歴に関する観測から得られた基本定義等を採用、決議、提言する。また、ユネスコ(国連教育科学文化機関)との共同事業として“The Astronomy and World Heritage Initiative (AWHI)”という、天文学に関連した人類文化的に重要な場所の保護と保全を行う等の活動を行っている。</p>
<p style="text-align: center;">国際事業等への参加・実施等</p> <p>The Galileo Teacher Training Program (GTTP)は、IAUが行う世界規模の事業の一例である。GTTPは、天文学教育の普及を目指し、特に初等・中等教育に当たる教員へのトレーニングと教材の開発を行っており、ヨーロッパ(オランダ、フランス、英国、ポーランド、ポルトガル)、南米(ブラジル、コロンビア)、アフリカ(ケニヤ)、アジア(中国、インドネシア、日本)、等でワークショップを開催している。</p>
<p style="text-align: center;">全世界的/地域的研究課題への取組み</p> <p>世界天文年2009の活動の成功を踏まえて、特に開発途上国への天文・科学の普及、教育、援助を柱とする戦略的10年計画「発展途上国のための天文学(Astronomy for the Developing World)」を2009年8月のリオデジャネイロ総会で採択し、その実現に向けて活動中である。女性研究者の増加、若手研究者の支援のための活動も行っている。</p>
<p style="text-align: center;">発展途上国への対応</p> <p>戦略的10年計画「発展途上国のための天文学」を遂行するために、2010年に新しくIAU Office for Astronomy Development(OAD)を南アフリカ天文台に創設した。現在このOADを中心に戦略的10年計画を推進している。その一環として、IAU Public Outreach Coordinator(POC)を2012年秋から国立天文台に置く予定。主に東アジア向けの英語での広報を担当することとなる。 OADのホームページ http://www.astro4dev.org/</p>

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<p>天文学は、観測的宇宙論と宇宙起源論の進展に伴う素粒子物理学との連携、太陽系探査や太陽系外惑星の観測の前進をふまえた地球惑星科学との連携、さらに宇宙における生命探査を見通しての生物学との連携など、広範な科学分野との関連が強まっている。急速に進む国際共同とあわせて、今後天文学・宇宙物理学分野の研究に大きな変化を生む要素であろう。</p>
--

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
President	海部宣男	2012	2015
President of Comission 5	大石雅寿	2009	2012
President of Comission 20	吉川 真	2009	2012
President of Comission 22	渡部潤一	2009	2012
President of Division VIII: Galaxies and the Universe	岡村定矩	2006	2009

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名

日本学術会議物理学委員会IAU分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

日本天文学会(全般)、日本物理学会、日本惑星科学会

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本天文学会	約 3000	http://www.asj.or.jp/
日本物理学会 宇宙 線・宇宙物理領域 日本物理学会 宇宙 線・宇宙物理領域		http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/JPSCR/index.html
日本惑星科学会	約 500	http://www.wakusei.jp/
高エネルギー宇宙物 理連絡会		http://heapa.astro.isas.jaxa.jp/

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名	IAU分科会
所属分野別委員会	物理学委員会

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
岡村定矩		杉山直	中川貴雄

会員数	連携会員数	特任連携会員数
2	18	0

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

- 1) 国際天文学連合(IAU)の日本対応組織として、総会への対応、新会員の推薦、その他IAUの活動に関する必要事項を審議しIAUにフィードバックする。
- 2) 日本天文学会の総会や評議員会においてIAUの活動や方針を紹介して参加を奨励するとともに、必要に応じて議論を行いIAUにフィードバックをする。

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2012/6/13	22期3回 (1) 8月の北京IAU総会の準備作業とシンポジウム、ジョイントディスカッション、特別セッションについて。 (2) 総会に提案される主な議案について。
2012/2/20	22期2回 (1) 73名の新会員をIAUに推薦したこと。 (2) IAUのDivisionの改組提案について議論した。 (3) IAUの名簿情報の更新作業を進めていること。
2012/1/4	22期1回 (1) 岡村委員長、永原副委員長、杉山幹事、中川幹事を選出 (2) IAU報告 Divisionの改組について、およびIAUのPublic Outreach Officeを国立天文台に置き、IAUとアジア諸国の資金分担により1名の特任教員を雇用すること。 (3) 8月に北京で開かれるIAU総会で、新たに会員として推薦する研究者の審議。
2011/11/1	*これはIAU分科会としての会議ではないが、分科会委員長と幹事およびメンバーを決めた親委員会(天文学・宇宙物理学分科会第22期1回)の会議であるため、記録に残しておく。
2011/8/30	*毎回「天文学・宇宙物理学分科会」との合同分科会として開催している。 21期13回 (1) IAU報告 (2) 北京総会での新メンバー推薦について その他
2011/5/20	21期12回 (1) IAU報告 (2) Division Structureに関して (3) IAU ルールの検討 (IAUシンポジウム関連)

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

年2回の日本天文学会年会時の総会、及び年3回開催の同評議員会において、IAUの活動状況について報告し、必要な事項があれば検討を依頼している。2009年9月の総会では、特に8月のIAU総会について詳しく報告した。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

分科会の活動方針で既述。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

特になし。

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

国際対応分科会としては適切に活動していると考え。第19期までは天文研連が国際対応委員会をかねており、国際対応は関連分野の国内活動と常に連携していたが、第20期以降国際対応のみを行う分科会として分離されたため組織上は、学会との連携などもやり難くなった。この弊害を軽減するため、分野分科会(天文学・宇宙物理学分科会)と合同で開催するという運用上の工夫をしている。